

募集要項概要

募集人数	15名程度
受講期間	2024年4月～2025年3月(1年間)
対面講義場所	主として高知大学医学部(高知県南国市岡豊町小蓮) ※対面授業+同期型オンライン授業のハイブリッドか 同期型オンライン授業を基本とします。
応募資格	医師、歯科医師、看護師、その他の医療従事者、 事務職員、医療関連企業等の中で病院経営に関与 している者(部署責任者、またはそれに準ずる者等)、 今後関与する予定の者で、次の各号のいずれかに 該当する者。 1)大学を卒業したもの 2)学校教育法第104条第4項の規定により独立行政法人大学改革 支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者 3)専修学校の専門課程を修了した者
応募方法	選考料9,800円を振込のうえ、次の応募書類を添えて 郵送もしくは持参にてお申し込みください。 ※申請書類は、四国病院経営プログラムホームページから ダウンロードできます。
募集期間	2023年12月1日(金)～2024年1月22日(月)〔必着〕
選考方法	応募書類による選考を行います。
結果通知	2024年2月上旬頃に結果通知書を送付します。
受講費用	186,000円～ 内 選考料9,800円/登録料28,200円/受講料148,000円(5科目)～ 訳 選択する科目数により変動します
履修証明書・ 修了証授与	本プログラム修了者には履修証明書及び 修了証を授与します。(学位は取得できません)

2024年度 スケジュール(予定)

1 学期	4月	・オリエンテーション ・選択科目受講届提出	選択科目 授業実施
	5月		マネジメント入門 (土日開校を基本に調整中)
	6月	●必修 病院経営学演習(6月15日(土)) 病院経営学講義(6月23日(日))	マネジメント入門 (土日開校を基本に調整中)
	7月		
	8月	●必修 病院経営学講義・演習 (8月31日(土))	
2 学期	9月	●必修 病院経営学講義・演習 (9月1日(日))	
	10月	●必修 病院経営学実習 (自施設での実践実習)	選択科目 授業実施
	11月		
	12月	●必修 病院経営学講義・演習 (12月14日(土)・15日(日))	
	1月		
	2月	●必修 病院経営学実習発表会 ・修了式(実習発表会と同日)	
	3月		

■メリット1

高知大学大学院修士課程の科目を履修することになりますので、希望により科目等履修生
としても登録し、合格すれば単位認定します。
(修士課程に入学した際に修了要件単位として利用可能)

■メリット2

厚生労働省「教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)」の指定講座であり、一定の条件を
クリアすると受講関係費用の約50%が給付金として国から給付されます。

詳しい情報や募集要項はホームページを検索!

四国病院経営プログラム



〈資料請求先・問い合わせ先〉

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部・病院事務部学生課大学院係 四国病院経営プログラム担当
TEL:088-880-2290 / FAX:088-880-2264 Email: hmp4@kochi-u.ac.jp

<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/koudo/>



地域医療を支える

四国病院経営プログラム

SHIKOKU HOSPITAL MANAGEMENT PROGRAM

2024年度
受講生募集

文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」認定 厚生労働省「教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)」指定講座

いち
一から学ぶ
病院経営

マネジメントスキルUP

病院に携わる方へ

四国病院経営プログラムでは1年間で 病院のトップマネジメントと OODA (Observe, Orient, Decide, Action) を実践できる 現場責任者を養成します

高知大学医学部は、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラム事業に選定され、香川大学・高知工科大学・高知県立大学と連携し、平成30年度から令和3年度まで病院経営学のプログラムを開設してきました。このプログラムは、病院長、副病院長などの経営責任者のみならず、医師、看護師、薬剤師、その他の医療従事者、事務担当者など多職種に対応し、病院経営に特化した人材育成を行うものであり、令和4年度以降もこれまで培ってきたノウハウを活かして質の高い人材養成をするため継続してプログラムを実施しております。

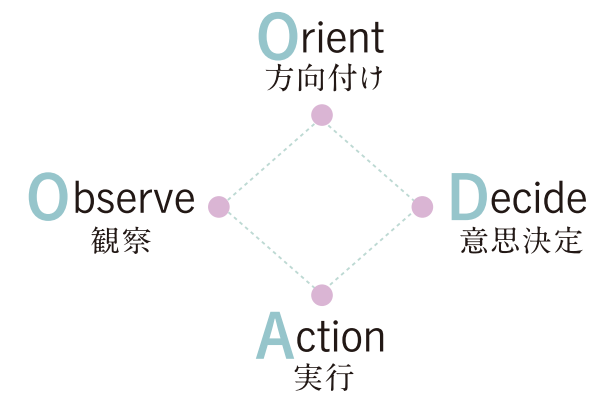
- 2020年3月、本プログラムは、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成29年度選定分）中間評価でS評価をいただきました。
- 2023年2月、本プログラムは文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成29年度選定分）事後評価でS評価（10件中唯一）をいただきました。

対象者：病院長、副病院長などの経営責任者、医師、看護師、薬剤師、
その他の医療従事者、事務担当者など

OODA

OODA（ウーダ）とは、「Observe（観察）」
「Orient（方向付け）」「Decide（意思決定）」
「Action（実行）」の思考サイクルを活用し
「実践力」を鍛えるプログラム構成です。

受け身型の学びではなく、カリキュラム内に、よりリアルに近い実践の場を設けるなど、実際に現場で役立つマネジメントの「技術」と「実践力」を身に付け、病院のトップマネジメントとともにOODA（ウーダ）を実践できる現場責任者を養成します。



プログラムの特徴

1. 理論と実践の実学から病院経営を学ぶ
2. ケースディスカッションで意思決定模擬実践
3. 病院経営現場での実践実習
4. 病院経営に携わる受講者との出会い

これまでの修了生は **74** 名、現在 **14** 名が受講中です！
（2018年度～2022年度） （2023年度）

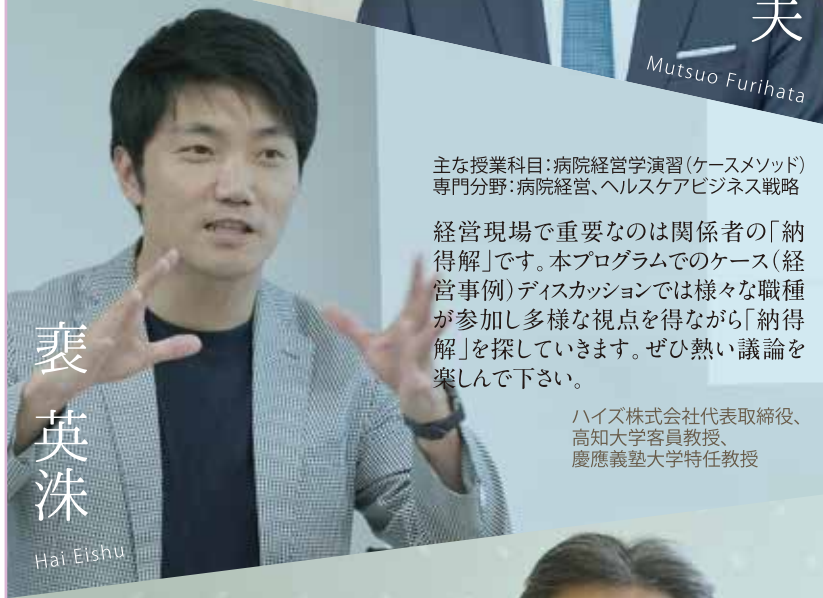


事業推進プロジェクトリーダー
専門分野: 病理学

本教育プログラムの特徴は、「実践力」の追求です。よりリアルに近い実践の場を設け、講師陣は第一線で活躍している経営者やコンサルタントを多く配置しました。たくさんのご参加をお待ちしております。

高知大学医学部長・
高知大学大学院総合人間自然科学研究科
医科学専攻長

降幡
睦夫
Mutsuo Furihata



天
Mutsuo Furihata

主な授業科目: 病院経営学演習(ケースメソッド)
専門分野: 病院経営、ヘルスケアビジネス戦略

経営現場で重要なのは関係者の「納得解」です。本プログラムでのケース(経営事例)ディスカッションでは様々な職種が参加し多様な視点を得ながら「納得解」を探していきます。ぜひ熱い議論を楽しんで下さい。

ハイズ株式会社代表取締役、
高知大学客員教授、
慶應義塾大学特任教授

斐
英
洙
Hai Eishu



Hai Eishu

主な授業科目: 病院経営学実習
専門分野: 産業医学、環境医学、衛生学

四国病院経営プログラムは、地域医療を支えている病院のトップマネージャーと現場責任者を同時に育てようとする挑戦的な取り組みです。最高の講師陣とともに病院経営の真髄を極めましょう。四国以外からのご参加も歓迎します。

菅沼 成文
Narufumi Sukanuma

高知大学医学部教授

四国病院経営プログラムは、地域医療を支えている病院のトップマネジャーと現場責任者を同時に育てようとする挑戦的な取り組みです。最高の講師陣とともに病院経営の真髄を極めましょう。四国以外からのご参加も歓迎します。

Narufumi Suganuma

Mutsuo Furihata

経営現場で重要なのは関係者の「納得解」です。本プログラムでのケース（経営事例）ディスカッションでは様々な職種が参加し多様な視点を得ながら「納得解」を探していきます。ぜひ熱い議論を楽しんで下さい。

Narufumi Suganuma

Hiroshi Uemura

Yoko Nakano

動機▶当院の人事総務課に課長として配属され約1年が経過したところ、事務部長から当プログラムのお話をいただきました。それまでクリニック経営には携わってききましたが、病院経営における経験はなく専門的な知識も少ないまま日々の業務を漠然と行っていました。日常では専門的な学習をする機会も少なく、何か機会があれば基本的な事から勉強してみたいと思っていたタイミングでお話をいただいたことが、受講を決意するきっかけとなりました。

受講途中の感想▶座学だけでなく、実践的な場面を想定したディスカッションでは常に問題意識を持って取り組むことができ、楽しく学ばせていただいています。
抱負▶日々現場で起きる様々な課題に対し、何が問題で、それに対する解決方法を提案できる力を身に付けたいと考えております。本プログラムで学ばせていただいた知識を現場でも活かし、病院経営に貢献できるよう努めていきたいです。



社会医療法人仁生会
細木病院
尾原 団
おはら まどか

人事総務課
課長

動機▶プログラムを知ったのは、上司の勧めがきっかけです。プログラムを受講することで、病院経営に関わる知識の習得、現状を分析するフレームワークや、マネジメント、リーダーシップについてなど、自分に足りないスキルを習得できるのではと感じ、受講に至りました。

受講途中の感想▶演習を通して、自分の意見を声に出して言うことの大切さを実感し、また他の受講生の考え方、価値観に触れることで良い刺激を受けました。

抱負▶学んだことのうち、すぐに実践しやすいのはフレームワークだと思います。所属部署の現状についてフレームワークで整理、見える化し、問題点を周りと共有しながら部署の円滑な運用に取り組んでいきたいと思っています。



高知大学医学部
附属病院
吉永 由菜
よしなが ゆな

医療技術部
臨床検査部門
主任

2023年度
受講生に訊く、

動機と抱負

受講の

動機▶複数科の診療内容・業務を担う職員が少数、もしくは一人で対応している場面もあり、業務によって、労働負担に差が生まれやすい環境となっています。過重労働となっている職員は心身の不調をきたしたり、場合によっては退職の原因となることもあります。そのために新たな職員の雇用や育成が必要となるなど、時間的・経済的にも損失が大きいと考え、悩んでいました。今回のプログラムでは組織のマネジメントや病院内の意思統一、コンフリクト解消を学習できるのではないかと思います、受講しました。

受講途中の感想▶実際の病院での事例をもとにしたケースをもとに、多職種の参加者とディスカッションを行うことで、今まで経験した自院や医師同士のディスカッションでは得られなかった気づきがあります。また講師からの説明で、自分では気づけなかった解決方法を知ることができ、新たな知識が得られていることを実感しています。

抱負▶コロナ禍で日常診療が様変わりしていく中、地域医療に貢献するために、職員が健康で前向きに働き続けられる病院・医局として病院の管理部や各職場の職責者に働きかけていきたいと考えています。



愛媛医療生活協同組合
愛媛生協病院
尾崎 達哉
おさき たつや

副院長
内科・家庭医療科
医局長

動機▶管理職としてノウハウを学ぶことなく役職につき、手探りで部署の運営に携わることに限界を感じていました。そのタイミングで本プログラムの2日間コースを受講し、現場に即したリーダーシップやマネジメントを学問として学び、自分自身の課題を整理することができました。さらに学びを深めることは組織のためにも必要な時間であることを確信したため、1年後にさらに成長した自分を期待して応募しました。

受講途中の感想▶実際の事例を通じて学ぶことや、他の受講者とのディスカッションで双方向の気づき（築き）が得られることに魅力を感じています。

抱負▶現在も受講しながら、今まで直面してきた課題をどう解決すべきであったかを振り返ることを意識しています。今後立ち向かう課題に対して、自分たちを取り巻く情勢を踏まえたOODAループを活用し、根拠ある方策を示すことができるよう取り組んでまいります。

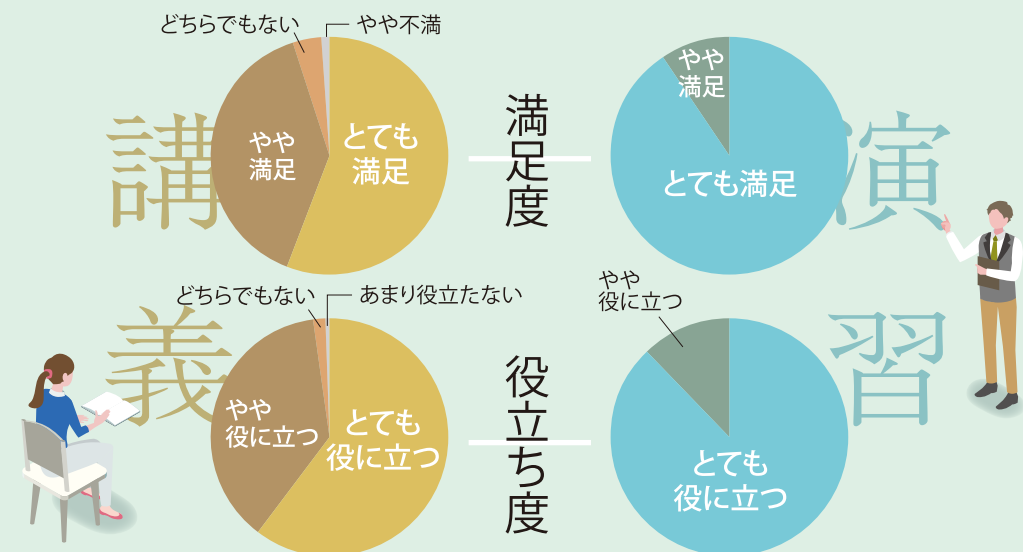


高知大学医学部
附属病院
細田 里南
ほそだ りな

医療技術部
部長
リハビリテーション部門
療法士長

2023年度 週末セミナーについてのアンケート結果より

2018年度～2023年度 週末セミナーの延べ人数で集計
●参加者数[講義243][演習235] ●アンケート回収数[講義232][演習224] ●回収率[講義95%][演習95%]



学び・気づき

病院管理職が学ぶべきものです。自院の同僚たちにも勧めます。次は学んだことをいかに現場で活かすかだと思っています。そこが一番の難関です。

「経営・マネジメント」という言葉の解釈が広がりました。これまで感覚で捉えていたことが、学問として体系化されており、ケースから講義という流れで非常に整理しやすかったです。

他の受講生の発言からの気づきや学びも多く、自分の視野の狭さ、思考の単純さを改めて実感することができました。とても興味深く、今後も多くのことを追体験しながら学んでみたいと思いました。

講義

常に最新の情報を得られる。また、経営戦略からマネジメントまで縦割りではなく、線として繋がったものとして学べる点が非常に良い。

日々、悶々と感覚だけで行っていた面談や指導を、学問として考える視点に気付かせていただき感謝します。系統立てて医療という観点から経済学を学ぶ機会は少なく、貴重な講義であったと感じました。

これまで経済学について勉強する機会がなかったため、その面白さがわかっていなかったが、統計学を利用した経済学の面白さが垣間見えて大変良かったです。

よかった点

どの演習ケースもリアルで自院の課題に当てはまるものばかりであり、演習を通して考え方を学べて、すぐに現場で実践できます。

講義、資料が分かりやすい。実際のケースを使用したディスカッションがリアルで分かりやすいし、現場で活用できる。

裏先生のファシリテートが分かりやすく、答えを導かせてくれる。

個人の発言を尊重してくれることを前提にしてくれたので、自信を持って思ったことが言え、学びが深まった。

講義で聞いていた内容により実践的に触れることができ、理解が深まった。他の参加者との交流も含め、高揚感をもって参加し、前向きに考えられるようになった。

実際の現場に置き換えられる課題を使用した演習であったため、現状課題の把握の仕方に結びつきやすかったです。また、ほかの参加者の意見や事例の結果をお聞きできたことで、考える視点の幅を持つことができました。

演習

「受講生・修了生交流会」

必修科目「病院経営学講義」の中で、「受講生・修了生交流会」を行っています。このプログラムで学んだことをどのように自院で活かされているのか発表を聞いたり、質問をする機会を設けています。

修了生からの貴重な発表は大変参考になった。特にOODAという言葉に惹かれ今プログラムでさらに学びたいと感じた。

修了生の皆さんが、病院全体を突き動かすような戦略を練って実行されていたので、とても刺激になりました。

経営改善に取り組んだ結果を、現状においても実務に取り入れ、さらに、上を目指して取り組まれている姿勢が素晴らしいと思います。

各世代のエースがされていたのではないかと思います。刺激的な交流会でした。

の感想



医師
(院長)



社会医療法人 仁生会
細木病院
細木 信吾 院長
ほそぎ しんご 医学博士

病院経営の知識が詰まった充実のカリキュラムを学び、 病院の将来像を描くことができました。

1 きっかけ 院長就任とともに必要とされた 経営に関するスキルを求めて

一昨年、院長及び社会医療法人副理事長に就任し、当院だけでなく、法人全体のマネジメントも担うポジションになりました。それまで医師として経験を積んできてはいましたが、経営については、ほぼ未経験。会計帳簿などに目を通していましたが、そこからどのようにアクションをすればいいのか、問題をどのように解決していけばいいのか、といったところに思いが巡りませんでした。そこで病院経営について勉強したいと考えていたところ、四国病院経営プログラムに出会いました。当院職員が毎年受講しているのに加え、前年に開催されたイベントに参加して興味がわいたことから、本プログラムを受講しました。

2 学び 医療や介護の歴史を振り返り これからの医療マネジメントを考える

プログラムの講義や演習は、大変有意義なものでした。マーケティング戦略、組織文化と経営組織論、ミッションとビジョンなどいずれも腑に落ちる内容で、病院経営に必要な知識を学べるとも優れたプログラムだと感じました。例えば、「医療政策・医療経済学」の授業では、保険診療や介護、福祉の歴史を学んだのですが、そこから今の問題点を理解することができ、2024年に報酬の「トリプル改訂」が行われることを含め、今後の医療マネジメントを考えていくうえで非常に重要な学びだったと思います。

そのほかにも、経営で一番大切なことはコミュニケーションにあること、大所帯を動かしていくときの理念の重要性、リーダーシップなどについて学ぶことができました。貸借対照表は損益計算書の意味と見方や、企業の勢いや経営状態の客観的な捉え方もとてもためになりました。

3 現在 患者へのアンケート調査を実施し、 病院の本当の姿を探る

カリキュラムに自施設での課題をテーマにした実践実習があり、私は患者さんの満足度の向上に取り組みました。その中で細木病院のことを皆さんがどう思っているのかを知るために、患者さんに向けたアンケート調査を継続的に実施しました。アンケートは当初、用紙に記入してもらう方式でしたが、実習中にWebを使ったアンケートに変更して、現在も続けています。結果は月1回解析し、それを現場にフィードバックしています。アンケートから患者さんの接遇改善の必要性がわかったことから、接遇向上のためのプログラムにも取り組んでいるところです。

また、職場全体でコミュニケーションをとることや、病院のミッションとビジョンの共有、DXを活用した病院と介護現場の連携など、プログラム受講をきっかけに様々な取り組みを始めています。

4 今後

誰もがハッピーになる 医療機関を目指す

細木病院は高知市西部の地域医療を担う使命があります。これからの医療の在り方と、将来の高知県や高知市の人口動態や医療環境などの情報を整理、理解して、当院が持っている機能を考え合わせて、ビジョンを定めなければいけません。医療機関として地域の皆さんや病院スタッフが一番ハッピーになる将来のあるべき姿を経営的視点から捉えて、病院や法人運営をしていきたいと考えています。

細木病院では現在、“この病院でよかった”と思ってもらえる病院を目指すことを掲げていますが、より能動的に、細木病院に「行きたい」「働きたい」と感じてもらえるように、あえて理念を変更することも視野に入れています。



医師
(副院長)



愛媛県公営企業管理局
愛媛県立今治病院
松田 修 副院長
まつだ おさむ 小児科部長

医療安全のリスクに備える取り組みで学んだ フレームワークを駆使しています。

1 きっかけ 臨床ひと筋から管理職へ 効率的に病院経営を学びたい

2021年に副院長に就任した折、前年に四国病院経営プログラムを受講していた院長から勧められたことがきっかけです。それまで臨床畑ひと筋に勤務医を続けてきたため、病院経営については何の知識もありません。管理職になったからと言って臨床医としての役割が免除されるわけもなく、効率的に病院経営のノウハウを学ぶことができる手立てを探していたので、渡りに船でした。

しかもプログラムを受講した院長が、会議などで経営学的な専門用語やフレームワークを駆使して、説得力のある発言をされるようになった。これは役に立つ学びができるに違いないと確信しました。仕事と受講の両立に不安はありましたが、すでに院長がやり遂げ、プログラムを高評価していたことが最終的な決め手になりました。

3 素早い意思決定が かなうOODAで 医療安全のリスクに 対応する

プログラムで学んだOODAを、病院実習で活用しました。刻々と変化する状況下で素早く意思決定をするためにビジネスシーンで多く使われるフレームワークですが、刻一刻と変化する院内医療安全のリスクに対応して取り組む場合に極めて有用なツールであることが実習を通してわかりました。引き続き現在も、個々のリスクに対してOODAで観察・状況・対応を行うなどの形で活用しています。

また、医療安全管理部のコアメンバーや地域連携室看護師などと週1回ミーティングを行って、苦情やインシデントを整理検討し、OODAを活かした対応を行うように心がけています。

2 学び 職場での実践に 活かすことができる 医療現場に マッチした事例演習

特に印象に残っている授業は、医療機関における経営事例を使ってディスカッションを行う「病院経営学演習」です。事例は場面設定が細かく作り込まれていて、人物描写のリアリティもとても高いものでした。解説資料も要所が押さえられ、医療現場で活かせる内容。何より、参加者の多様な意見を引き出す講師のファシリテーションスキルが素晴らしい。授業が進むにつれて、自分の発言力やコミュニケーションスキルまで高まっているのではと感じたほどでした。

病院では医療安全管理部長を任されていることから、実習では「チーム医療と医療安全」をテーマに行いました。企業が事業活動を健全かつ効率的に運営するための仕組みである「内部統制」を整理し、組織的リスクマネジメントを実践。その中でチーム医療と医療安全上の今後の課題を明らかにすることが目的でした。講師の先生からは、OODAを用いた医療安全上のリスクに対応だけでなく、PDCAサイクルを用いた統制活動や、より大局的な内部統制のためのフレームワークに基づく組織的な取り組みなどのアドバイスを受けました。

4 今後 リスクマネジメントで信頼を高め 地域の医療機関との連携を強化する

2023年7月、当院が紹介患者への外来を基本とする紹介受診重点医療機関であることが公表されました。今後は、連携病院やかかりつけ医療機関との連携を強化することが最も重要で、連携機関の期待に応えるためには事故を起こしたり、苦情を受けたりすることなく、診療業務などを適切に遂行することが不可欠です。副院長であり医療安全管理部長である私の責務は、業務を常に評価、モニタリングして、エラーの段階で対応を行い、事故に至ることがないようにすることです。そのためにコミュニケーションを円滑にし、組織において気づきを促す方策として、マインドフル演習などの研修の実施を検討しています。



病院経営に特化したプログラムだからこそ 講義や演習が身近に感じられました。

1 苦手分野だからこそ 学びたいという気持ちがつゆる きっかけ

職場で四国病院経営プログラムの受講者を募集していたことが、履修のきっかけです。応募要件には「興味のある人」と書いてありました。経営学などは今まで何も学習しておらず、まったく知らない分野なので新しい知識を得られるのではないかと思い、気軽な気持ちで応募しました。これまでマーケティングや経済などにあまり興味がなく、数字的なものにも強いわけではないのですが、逆に苦手分野だからこそ興味を惹かれました。

社会医療法人
岡村一心堂病院
松橋 妙子 臨床工学技士
まつはし たえこ 主任



2 多職種の意見に触れることができる 実りの多いディスカッション 学び

私にとっては全く知らない世界なので、経営管理や経営戦略などに関しては基本的な言葉にもついていけず、理解するのが結構大変でした。しかし、カリキュラムはきちんと基礎から教えてくださり、自分でもしっかり振り返りをしながら学んだので、受講前に比べてそれなりに理解度が高まったと感じています。病院経営に特化したプログラムだったので、とても身近に感じられました。それまで自分には関係ないと思って見過ごしてきたものに、気付くことができるようになった、と感じています。授業は週末にオンラインで行われたので、業務に支障なく受講できました。

経営事例について検討し、講師や受講生でディスカッションをする演習があるのですが、いろいろな職種の方の考え方を知ることができて興味深かったです。ドクターや看護師、事務職など多職種の方と話ができる機会は、病院勤務の中ではあまりありません。それぞれの立場で深い考えをもたれていることがわかり、勉強になりました。しかも、自分の職場でも起こりえるような問題が提示されるので、よりリアルに考えることができました。

3 現在 医療機器管理が テーマの実習を 業務に活かすべく、 継続して取り組む

病院経営学実習は病院の医療機器の購入計画の作成がテーマで、現在も継続して取り組んでいます。当院では臨床工学技士(ME)が医療機器全般の管理をします。そのため、購入方針やメンテナンス、修理などの相談が、使用する部署から寄せられます。そこで、病院全体の医療機器を知ったうえで方針を定め、計画的な購入・更新計画を立てたいと思い、実習テーマにしました。講義で教わったOODAループやPEST分析などを活用して問題点を洗い出し、価格調査などを実施。講師の方のアドバイスも受けながら取り組みを進めましたが、次年度の計画までしか立てることができませんでした。

実習をいっきかけとして取り組みを継続したいと思い、事務方と相談しながら対応を考えています。

4 今後 自分の弱点に向き合い 更なるステップアップを目指す

実習を通してわかったことは、予定どおりにはいかないということ。そういうイレギュラーも含めて、どのような計画を立てればいいのか考え、病院経営にも役立てられるものにブラッシュアップしていきたいと思っています。

今回のプログラム履修では、自分の弱点を見つけることができたと思います。講師の先生には、実習について一番苦手とする分野を頑張った努力を評価していただき、仕事に対するやる気にもつながりました。コスト意識を持って医療に取り組む姿勢はこれからの医療業界ですますます必要になると思うので、四国病院経営プログラムは多くの人にお勧めしたいと思います。この先も、自分の知識を広げることができるような学びの機会があれば、積極的に参加したいと思います。



実習を活用し、時間外労働時間の短縮を目的に 院外と協調して輪番制を構築しました。

1 病院経営のスキルのほかに きっかけ 日本の医療体制も総合的に学びたい

医師として長く臨床に携わっていたため、2021年に副院長に就任するまで病院経営などには全く関わっていません。管理職となり、経営などについて勉強しなければいけないと漠然と感じるようになりました。そんな折、すでに四国病院経営プログラムを履修した当院の院長から受講を勧められました。

これまでに公立病院、私立病院ともに勤務した経験から、公立病院は収益化よりも住民サービスとしての役割が大きいのではないか、という個人的な思いもありました。病院経営とともに、日本の医療体制のようなものも総合的に学ぶことができたらと思い、受講に踏み切りました。

愛媛県公営企業管理局
愛媛県立今治病院
高月 秀典 副院長
たかつき ひでのり 消化器外科部長



2 問題へのアプローチに役立つ 分析法や発想法が習得できる 学び

「医療政策・医療経済学」という講義では、皆保険制度などを絡めた日本の医療制度について勉強することができ、知識の整理ができて役に立ったと思います。

実習は、当院の外科医師の時間外労働時間をテーマにしました。勤務時間外は仕事をしない、ということでは地域の医療は成り立ちません。どのような取り組みをしていけば時間外労働時間を短縮できるのか、以前からこうした問題意識を持っていたので、実習のテーマに決めました。

実習では実際に医師会などに働きかけ、それまで当院の比重が大きかった時間外救急の緊急手術について、他の病院と輪番制で行うための「腹部救急ネットワーク」の設立にこぎつけました。講義で教わったり、講師から勧められた書籍などで勉強したりして学んだ分析法や発想法を使ってアプローチしました。さまざまな場面で使えることを学べたのが、受講で得た大きな収穫のひとつです。輪番制の体制をつくるためには、医師会や他の病院など院外の組織と協調しなければならず、正直大変でした。講師の方からも月に1回ぐらい、提言をいただきながら、何とかやり遂げることができました。

4 今後 住民に信頼される地域の中核病院として より一層の進化を目指す

今回の受講では、ディスカッションを通して医療にかかわる様々な職種の方の率直な意見に触れられ、院内にいてはなかなかできない貴重な経験ができました。当院の看護師の皆さんにもぜひ受講を勧めたい。医局と看護部がより一体感を持って、今後の病院経営や活動に前進していけるのではないかと思います。

愛媛県立今治病院は今年、建設されてから40年目を迎え、改築や移転を視野に入れた老朽化対策の検討が本格化しています。地域医療を支える中核病院として、地域の皆さまから信頼をいただけるよう、さらに進化することがこれからの目標です。

3 現在 医師の働き方改革の 適用に向けて 改善の取り組みを継続中

時間外労働時間の短縮に向けた取り組みを引き続き行っています。2022年の暮れごろから輪番制がスタートしました。これによって確実に休みを取ることができるようになって、医師の精神的負担感は軽減しました。しかし、依然として当院が担当しなければならない割合が多いのが現状です。この不均等を是正するために、医師会などに働きかけを続けています。できれば地域の医療機関と協力し合い、均等な負担で皆が頑張りが合えたらというのが理想の形です。2024年度には、勤務医に対して時間外労働時間の上限などが設けられた働き方改革が適用されます。公立病院として地域医療を支える役割を担うとともに、現実在即した形で医師の働き方の改善を進めていきたいと思っています。